

株式会社東陽テクニカ（東証プライム：8151）

2022年9月期 第2四半期決算説明資料

2021年10月1日～2022年3月31日

2022年5月11日

“はかる”技術で未来を創る

 東陽テクニカ

1. 2022年9月期 第2四半期の決算状況
2. セグメント別状況
3. 2022年9月期 業績予想
4. 企業としての取り組み
5. “はかる”技術への取り組み

1. 2022年9月期 第2四半期の決算状況

2. セグメント別状況

3. 2022年9月期 業績予想

4. 企業としての取り組み

5. “はかる”技術への取り組み

カーボンニュートラル分野、5G／DX分野で順調にビジネスを推進

- **受注は好調、受注残高が大幅増**
- **物性／エネルギー**
 - 全固体電池などの次世代電池開発用測定システム、EV向け急速充電評価装置の売上が前期に引き続き好調、セグメント利益も大幅増
- **情報通信／情報セキュリティ**
 - 5G試験、DX関連試験の需要堅調も、半導体不足などによる仕入先の納期遅延により売上高は前年並み、受注残高が大幅増
- **ソフトウェア開発支援**
 - 感染による巣ごもり需要の継続によりゲーム業界向けが好調、セグメント利益も大幅増
- **海外ビジネス**
 - 中国：市場が回復し受注が好調も、3月に売上の予定が集中していたが、感染再拡大によって出荷が計画どおりにできなかったことにより、受注残高が大幅増
 - 米国：CASE開発向けソリューションの大型案件を受注

増収増益、好調であった前年同期の指標を全て上回る

- **売上高**：対前年同期比+9.4億円（+7.3%）の140.1億円
物性／エネルギー、海洋／特機、ソフトウェア開発支援が増収
- **営業利益**：対前年同期比+5.3億円（+35.4%）の20.5億円
情報通信／情報セキュリティ、物性／エネルギー、海洋／特機、ソフトウェア開発支援が増益
- **当期純利益**：対前年同期比+2.0億円（+14.9%）の15.9億円

（単位：億円）

	2021年 9月期Q2	2022年 9月期Q2	増減額	増減率
売上高	130.6	140.1	+9.4	+7.3%
営業利益	15.1	20.5	+5.3	+35.4%
経常利益	17.0	22.7	+5.7	+33.9%
当期純利益	13.8	15.9	+2.0	+14.9%

* 2022年9月期は収益認識に関する会計基準を適用しております。

受注は好調、受注残高が大幅増

- **受注高**：対前年同期比**+10.8億円（+7.7%）**の**151.0億円**
機械制御／振動騒音、物性／エネルギー、EMC／大型アンテナで増加
- **受注残高**：対前年同期比**+44.2億円（+52.1%）**の**129.0億円**
情報通信／情報セキュリティ、機械制御／振動騒音、EMC／大型アンテナ、
海洋／特機で増加

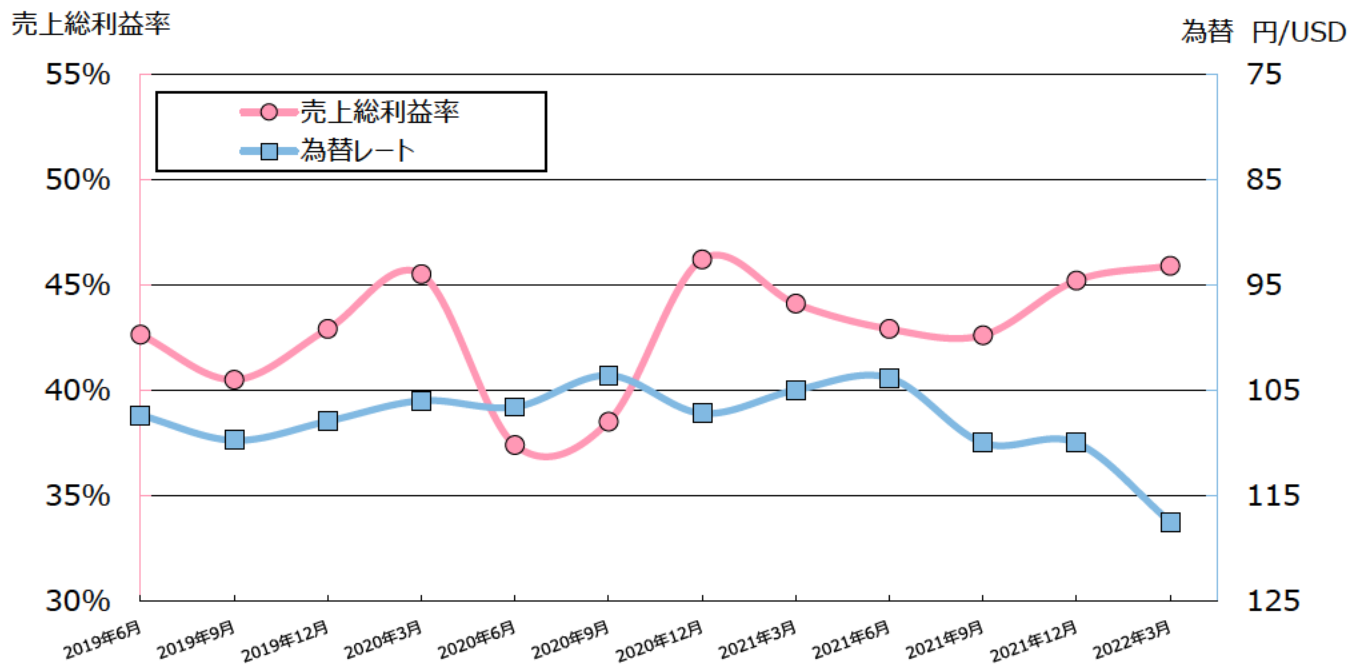
（単位：億円）

	2021年 9月期Q2	2022年 9月期Q2	増減額	増減率
受注高	140.1	151.0	+10.8	+7.7%
受注残高	84.8	129.0	+44.2	+52.1%

* 2022年9月期は収益認識に関する会計基準を適用しております。

参考：為替と売上総利益率

為替は急激な円安傾向も、高い利益率を維持



1. 2022年9月期 第2四半期の決算状況

2. セグメント別状況

3. 2022年9月期 業績予想

4. 企業としての取り組み

5. “はかる”技術への取り組み

セグメント別 売上高・セグメント利益

物性／エネルギー、海洋／特機、ソフトウェア開発支援が好調

(単位：億円)

セグメント	売上高 (前年同期比)	セグメント利益 (前年同期比)	事業概況
情報通信/ 情報セキュリティ	37.6 (+0.7%)	5.5 (+16.0%)	5G・DX関連試験は堅調も、半導体部品不足などによる仕入先の納期遅延により売上高が前年並み。売上総利益利益率が改善。
機械制御／振動騒音	25.4 (△2.1%)	5.5 (△12.4%)	部品不足などによる仕入先の納期遅延により、売上高とセグメント利益が減少。
物性／エネルギー	33.8 (+13.8%)	9.4 (+49.0%)	次世代電池開発用測定システム、EV向け急速充電評価装置が好調。中国ビジネスの売上総利益率が改善。
EMC／大型アンテナ	21.3 (+9.0%)	2.1 (△15.9%)	自動車、産業機械の分野で需要増も、海外仕入先技術者の来日延期による検収遅延や、中国では3月に売上の予定が集中していたが、感染再拡大によって出荷がほぼできず。
その他※1	21.8 (+21.8%)	4.0 (+46.7%)	海洋／特機では、特機関連で大型案件の売上。ソフトウェア開発支援では、ゲーム業界向けが好調を継続。
全社費用※2	-	△6.1 (△18.6%)	
合計	140.1 (+7.3%)	20.5 (+35.4%)	

※1その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンス／マテリアルズの3セグメントが含まれます。

※2全社費用は、報告セグメントに帰属しない営業費用のほか、引当金の計上方法による差異等が含まれます。

セグメント別 受注高・受注残高

機械制御／振動騒音、物性／エネルギー、EMC／大型アンテナが好調

(単位：億円)

セグメント	受注高 (前年同期比)	受注残高 (前年同期比)	事業概況
情報通信／ 情報セキュリティ	42.7 (△2.3%)	28.0 (+47.2%)	5G・DX関連試験は需要堅調も、半導体部品不足などによる仕入先の納期遅延により受注残高が大幅増。
機械制御／振動騒音	36.6 (+46.9%)	24.3 (+227.9%)	自動車分野で振動騒音の研究開発投資が下げ止まり、半導体分野を中心に受注高が大幅増。部品不足などによる仕入先の納期遅延もあり、受注残高が大幅増。
物性／エネルギー	29.7 (+8.3%)	16.8 (+5.1%)	カーボンニュートラル分野への投資活況、次世代電池開発用測定システム、EV向け急速充電評価装置が好調。
EMC／大型アンテナ	21.6 (+17.9%)	34.5 (+47.9%)	自動車、産業機械の分野で需要増も、海外仕入先技術者の来日延期による検収遅延や、中国では3月に売上の予定が集中していたが、感染再拡大によって出荷がほぼできず、受注残高が大幅増。
その他※1	20.2 (△21.2%)	25.2 (+33.1%)	海洋／特機では、大型案件の受注が減少も、売上までの期間が長く受注残高は大幅増。ライフサイエンス／マテリアルズでは、SEM装置の受注が遅れて減少。
合計	151.0 (+7.7%)	129.0 (+52.1%)	

※1その他には海洋／特機、ソフトウェア開発支援、ライフサイエンス／マテリアルズの3セグメントが含まれます。

“はかる”技術で未来を創る

1. 2022年9月期 第2四半期の決算状況

2. セグメント別状況

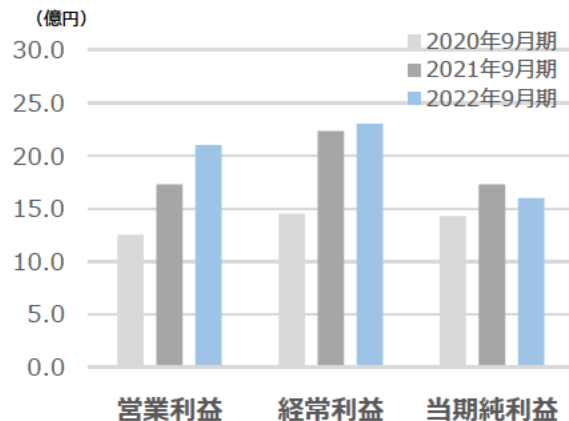
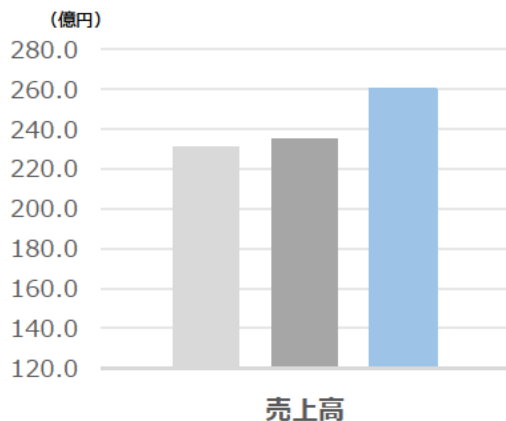
3. 2022年9月期 業績予想

4. 企業としての取り組み

5. “はかる”技術への取り組み

2022年9月期業績予想値

通期業績予想は期初計画どおり



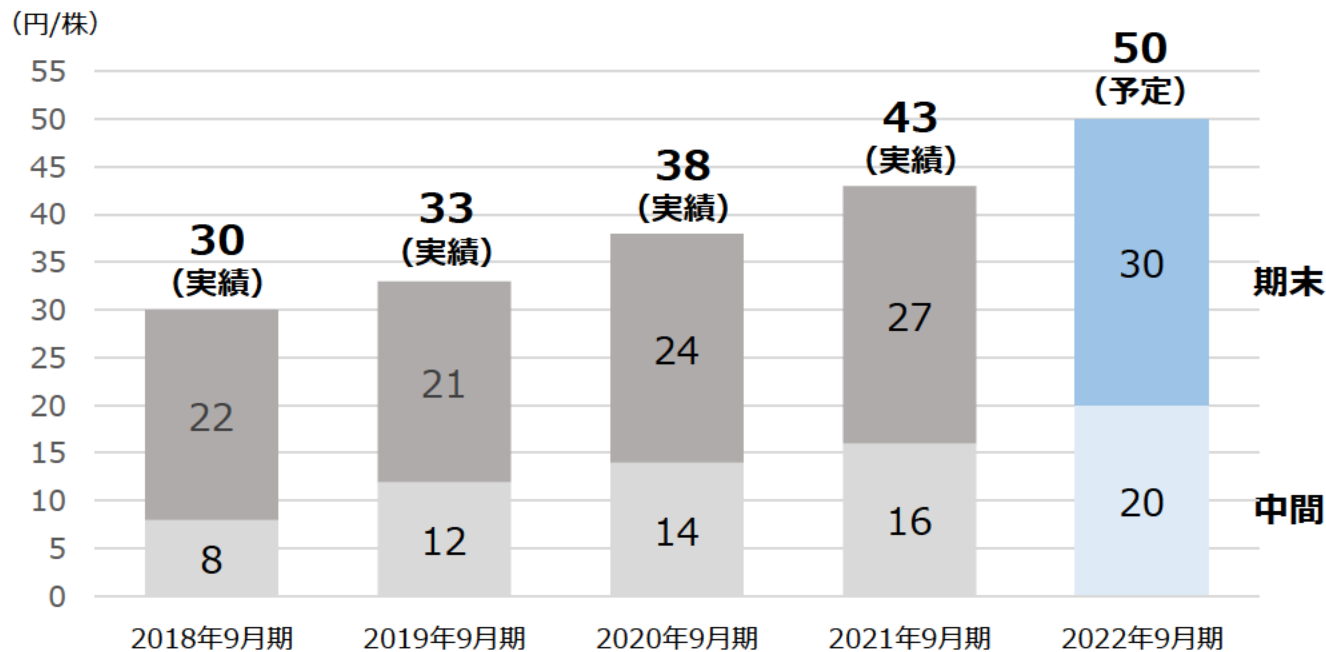
(単位：億円)

	2020年9月期	2021年9月期	2022年9月期 予想値
売上高	231.0	235.1	260.0
営業利益	12.5	17.2	21.0
経常利益	14.5	22.3	23.0
当期純利益	14.3	17.3	16.0

*はかる*技術で未来を創る

2021年9月期比での増配を予定、期初予想どおり

2022年9月期より新しい配当方針となり、**DOE4%** または、**連結配当性向60%** のいずれか大きい配当額を選択



1. 2022年9月期 第2四半期の決算状況
2. セグメント別状況
3. 2022年9月期 業績予想
- 4. 企業としての取り組み**
5. “はかる”技術への取り組み

「プライム市場」への移行

当社は、2022年4月4日、東京証券取引所の市場区分再編にともない、「プライム市場」へ移行しました。

新市場の上場維持基準については全てに適合済みです。

新CGコードについても社内対応を完了しており、株主総会後の2022年12月に全原則にコンプライする予定です。

今後も、より一層のガバナンス強化と透明性の向上を図り、“はかる”技術のリーディングカンパニーとしてステークホルダーの皆様のご期待に沿えるよう、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に鋭意努力してまいります。

「サステナビリティ委員会」設置に関するお知らせ

当社は、持続的な企業価値の向上と持続可能な社会の実現に向けた取り組みをさらに推進するため、「サステナビリティ委員会」を2022年4月5日付けで設置しました。

「サステナビリティ委員会」は、取締役会による監督のもと、代表取締役社長を委員長とし、サステナビリティに関わる取り組みの検討および審議を行います。

当委員会の活動を通じて、ステークホルダーへの適切な情報開示を行い、さらには、よりダイレクトにサステナビリティに貢献できる新事業開発にも積極的に挑戦し、あらゆるイノベーションの基準点となる“はかる”技術で、社会や環境の課題解決に貢献するビジネスを推進してまいります。

参照URL：当社ニュースリリース(2022年4月15日)

・https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220415_sustainability_70042.pdf

1. 2022年9月期 第2四半期の決算状況
2. セグメント別状況
3. 2022年9月期 業績予想
4. 企業としての取り組み
5. **“はかる”技術への取り組み**

情報セキュリティへの意識向上を唱えるオンラインセミナーを開催

世界的に有名なハッカーでKnowBe4社のCHO ケビン・ミトニック氏を招き講演

企業の情報セキュリティ担当者を対象としたオンラインセミナーを2月にKnowBe4社と共に開催し、700名を超える参加がありました。

同社CHO ケビン・ミトニック氏が昨今のハッキング脅威について警鐘を鳴らし、情報セキュリティへの意識向上を唱えました。

サブスクリプションで提供している企業向けのセキュリティ教育ツール「KnowBe4」は、従業員へのセキュリティ意識向上トレーニングや、サイバー攻撃被害の疑似体験、組織全体のセキュリティリスクの可視化を提供する統合型プラットフォームで、従業員一人一人のセキュリティ意識を高めることで、「人」を狙うセキュリティ脅威から、個人、組織、企業を防御することを支援しています。



ケビン・ミトニック氏

参照URL：当社ニュースリリース(2022年2月24日)

・https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220224_knowbe4_seminar_70034.pdf

自社開発EMI対策アシストソフトウェア「EMINT」、AI解析技術で特許取得

EMI 測定データを AI で解析し、有効な対策方法を提案

自社開発の EMI※1対策アシストソフトウェア「EMINT」に搭載している AI 解析技術『分析システム、装置、方法及びプログラム』で特許を取得いたしました。これは、EMI 測定データを AI で解析し、「EMINT」内に蓄積している過去のデータから有効な EMI 対策を探し出す技術です。

エンジニアが個々に持っていた対策ナレッジを収集・集約することで、工数の削減に貢献し、エンジニア同士の技術知見の交換・共有を可能にします。

「EMINT」もまた、当社のリカーリングビジネスの一環で、年間ライセンスによる販売形態で提供しています。

技術革新の進む自動車業界をはじめ、幅広い分野で開発業務の効率化を支援いたします。



EMI 対策アシストソフトウェア「EMINT」操作画面イメージ

※1 Electromagnetic Interference(電磁障害)：電子機器などが周囲に不要な電磁波ノイズを放出すること

参照URL：当社ニュースリリース(2022年2月24日)

・https://www.toyo.co.jp/files/user/company/documents/release/220224_emint_patent_70035.pdf

本資料にて開示されているデータおよび将来に関する予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくものであり、経済情勢や市場動向の変化等、様々な理由により変化する可能性があります。従いまして、本資料は、記載された目標・予想の達成および将来の業績を保証するものではありません。

お問い合わせ先
株式会社東陽テクニカ
経営企画部
toyo-ir@toyo.co.jp